

令和7年度 授業改善推進プラン < 社会 >

練馬区立大泉西中学校

	課題分析	授業改善策	評価
1年	<p>授業は落ち着いて受けられており、適度に質問もあって、授業者と生徒の良い人間関係の中で授業が受けられている。一方、授業は意欲的に取り組んでいるものの、小テストの点数や定期考査の結果から、知識・技能の評価が低く、基礎・基本となる知識が定着できていなかった。そのため、知識が定着していることを前提とした資料の読み取り問題、文章記述に関する問題、選択肢の正誤問題等で大きく点数を落としていた。</p>	<p>まずは知識の定着を図るために、単元や授業ごとにキーワードを強調し、板書やワークシートの構成を工夫する。また、本時の振り返りができるように、学習した用語が穴埋めできるワークシートを作成する。その上で、知識を生かした資料読解や文章記述、正誤問題に取り組む。また、定期考査においては、正答率70%を目指し、家庭学習の成果が発揮できたと自己肯定感が高まるよう、生徒の現状に合わせた問題を作成して、学習意欲を高めていく。</p>	<p>キーワードを強調し、生徒が1単位時間で何を学習したのか分かるよう授業を進めた。学年末考査では知識・技能の正答率は64%であったが、前向きに学習に取り組める生徒が増えてきた。漢字の書き取りが困難な生徒が多数在籍しているため、定期考査では記号で解答できる問題を増やし、生徒が達成感を得られるよう配慮した。2年次に向け、知識の暗記だけでなく、得た知識を生かして地図やグラフ、年表等が読解できるように、授業構成や資料の提示、ワークシートに工夫を凝らし、生徒の社会的な見方・考え方をさらに向上させていく。</p>
2年	<p>小テストや定期考査の結果から、知識・技能の定着が不十分である。また、資料・地図から読み取れる事項と学習した内容を結びつけて考える問題の得点率が低く、用語の本質的な理解が不足している可能性がある。</p>	<p>ワークシートの構成を工夫し、用語や知識の定着を図る。また、デジタルドリルやKahoot!を活用し、学習意欲を高めながら学習内容の振り返りを行う。その上で、授業内で知識・技能を活かした資料の読み取りや、自身の意見を論述する機会を増やす。</p>	<p>定期的にクイズ形式で知識の定着を図る活動を行ったことで、生徒も意欲的に学習活動に取り組む姿が見られた。学年考査では、知識・技能の正答率は69%であった。一方で、学習した知識を活用して考える必要のある問題の正答率は低い。各単元の中ではディスカッションの時間を設け、他者の意見に触れながら自身の意見を論述する機会を確保した。</p>
3年	<p>授業の取組や定期考査の結果から、複数の資料から必要な事象を読み取って考察する問題や、思考力・判断力を問う問題では、満足できる水準には達していない。</p>	<p>タブレットパソコンを活用するとともに、個人→少人数グループ→学級全体という流れで話し合い活動を充実させ、学び合う機会を増やしていく。 単元ごとに振り返りを行うワークシートを配布し、基礎基本の定着を図る。</p>	<p>ジグソー法などを中心とする話し合い活動を通じて、学び合う機会を設けることができた。しかし、十分な時間は確保できなかった。指導計画を検討し、一層話し合い活動を充実させることを今後の課題とする。</p>